



月令題林

中村俊定文庫

文庫 18

1022



此名所付合題林一部七卷岳西推中撰ひ集め
くくくく予よせせせせ先年予の集あつて
詩林名考あつて進つて付合題もあつて
又其お類ともあつてあつてあつて初学は
是又よれりあつてあつてあつて一覽のあつて
加愚筆抗

延寶九年三月廿日

如是庵素門西順



名所付合題林一山影

○嶺のふもとにまひる山に由立田なるはし

金葉 せせら峰の掃や咲ぬらんしとほほふふふふ 掃はる春

秋後 喬と高唐をみるなる山峯の秋風をしくさう 長家

結拾 朝朗わくせ山を峯をいへしとほほふふふふ 為家

○高根 せせら山よ此入山かつま 高根 しのぶ

新古 降けし高根のまをさるる清瀬川の水は白浪 西行

同 ささるる高根のまをさるる清瀬川の水は白浪 結拾

新拾 白あけの言根は月はてぬ秋をけりうさう 高根 有家

○根わく

中裁 何くせの言根は根わくさうとあはれ河而神育はる 西行

其木 根わくさうの根わくさうとあはれ河而神育はる 西行



○ 禁 山 朝 山 嬉 抄 山 記 一

新古 山ありてそ見し 松葉をわきの山に禁ありて 補平
陸拾 足柄の山ありてそ見し 一夜中を待て下道 長時
新拾 山ありてそ見し 山ありてそ見し 山ありてそ見し 長時
○ 峯 山 記 一

後撰 山ありてそ見し 山ありてそ見し 山ありてそ見し
陸拾 山ありてそ見し 山ありてそ見し 山ありてそ見し
新撰 山ありてそ見し 山ありてそ見し 山ありてそ見し
○ 山 記 一

山 山ありてそ見し 山ありてそ見し 山ありてそ見し
新拾 山ありてそ見し 山ありてそ見し 山ありてそ見し
陸拾 山ありてそ見し 山ありてそ見し 山ありてそ見し

山 山ありてそ見し 山ありてそ見し 山ありてそ見し

○ 松 山 記 一

金葉 山ありてそ見し 山ありてそ見し 山ありてそ見し
陸拾 山ありてそ見し 山ありてそ見し 山ありてそ見し
家集 山ありてそ見し 山ありてそ見し 山ありてそ見し
○ 山 記 一

新物 山ありてそ見し 山ありてそ見し 山ありてそ見し
山 山ありてそ見し 山ありてそ見し 山ありてそ見し
山 山ありてそ見し 山ありてそ見し 山ありてそ見し
山 山ありてそ見し 山ありてそ見し 山ありてそ見し
山 山ありてそ見し 山ありてそ見し 山ありてそ見し

○山崎

後拾 とももみらるぬえきききりてしるの心き成光
新拾 神うし目やれたらともききと相うきき成光
○山崎 とももみらるぬえきききりてしるの心き成光

同 やうりの心田中野の心ききりてしるの心き成光
後拾 とももみらるぬえきききりてしるの心き成光
新拾 わうりの心田中野の心ききりてしるの心き成光
○山崎

後拾 とももみらるぬえきききりてしるの心き成光
新拾 とももみらるぬえきききりてしるの心き成光
○山崎

新拾 とももみらるぬえきききりてしるの心き成光

○山崎

千 後拾 とももみらるぬえきききりてしるの心き成光
新拾 とももみらるぬえきききりてしるの心き成光
○山崎

拾 とももみらるぬえきききりてしるの心き成光
後拾 とももみらるぬえきききりてしるの心き成光
○山崎

新拾 とももみらるぬえきききりてしるの心き成光
後拾 とももみらるぬえきききりてしるの心き成光
○山崎

新物
自昔あはれ
。なほ

諸君
後子
万葉
。い

風
新物
。松
新千

。洲

新白
。諸
日
日
日
日

新千
同
堀首
。汀

金紫 さいのりつゝあかきしほはのちかえりしひしひし
疎後撰 汀の岸に橋成らんとてあかきしほはのちかえりしひしひし
鏡千 湖の浦にのちかきしほはのちかえりしひしひし
同 五回川に流るるまきしほはのちかえりしひしひし
新子 さいのりつゝあかきしほはのちかえりしひしひし
新橋 さいのりつゝあかきしほはのちかえりしひしひし
同 さいのりつゝあかきしほはのちかえりしひしひし
。 留りつゝあかきしほはのちかえりしひしひし

玉紫 松浦のちかきしほはのちかえりしひしひし
新橋 何らかきしほはのちかえりしひしひし
疎拾 松さきまきしほはのちかえりしひしひし
疎後撰 かの浦にのちかきしほはのちかえりしひしひし

。 西戸 ちかきしほはのちかえりしひしひし

金紫 我々のちかきしほはのちかえりしひしひし
玉紫 松浦のちかきしほはのちかえりしひしひし
新子 何らかきしほはのちかえりしひしひし
。 澤

新石 ちかきしほはのちかえりしひしひし
疎拾 さいのりつゝあかきしほはのちかえりしひしひし
新橋 日頃かきしほはのちかえりしひしひし
生木 ちかきしほはのちかえりしひしひし
。 如由 あかきしほはのちかえりしひしひし

中 さいのりつゝあかきしほはのちかえりしひしひし
同 さいのりつゝあかきしほはのちかえりしひしひし

拾遺 子早振がまの河にちかきうらむらひのほりて種を植ふ

。かゝる

後撰 ちりけりかき種のかゝるに常の先より也新をたて 三葉草

後拾 ちかきうらむらひのほりて種を植ふ 好忠

五葉 松人のちかき種を植ふ 好忠

新拾 尺や長はちかきうらむらひのほりて種を植ふ 西の

。川門

新勅 千をくむらひのほりて種を植ふ 好忠

後拾 ちかきうらむらひのほりて種を植ふ 好忠

五葉 松人のちかき種を植ふ 好忠

。河津

後撰 ちかきうらむらひのほりて種を植ふ 好忠

後拾 ちかきうらむらひのほりて種を植ふ 好忠

新勅 千をくむらひのほりて種を植ふ 好忠

五葉 松人のちかき種を植ふ 好忠

。河津

拾遺 子早振がまの河にちかきうらむらひのほりて種を植ふ

因 ちかきうらむらひのほりて種を植ふ 好忠

五葉 松人のちかき種を植ふ 好忠

。河津

新勅 千をくむらひのほりて種を植ふ 好忠

後拾 ちかきうらむらひのほりて種を植ふ 好忠

因 ちかきうらむらひのほりて種を植ふ 好忠

新勅 千をくむらひのほりて種を植ふ 好忠

○うまふ ちのし

新給 ちのしうは長年をえ申のうまふより何中や 申者
其本 ちのしうは長年をえ申のうまふより何中や 申者
のうまふ ちのしうは長年をえ申のうまふより何中や 申者

○うまふ

新給 延暦川源のちのしうは長年をえ申のうまふより何中や 申者
のうまふ ちのしうは長年をえ申のうまふより何中や 申者

○うまふ

ちのし ちのしうのうまふは長年をえ申のうまふより何中や 申者
其本 潮門のちのしうは長年をえ申のうまふより何中や 申者

○うまふ

其本 ちのしうのうまふは長年をえ申のうまふより何中や 申者
其本 かのうまふは長年をえ申のうまふより何中や 申者

○浦和

新給 浦和のちのしうは長年をえ申のうまふより何中や 申者
新給 浦和のちのしうは長年をえ申のうまふより何中や 申者

○河和

其本 浦和のちのしうは長年をえ申のうまふより何中や 申者
同 浦和のちのしうは長年をえ申のうまふより何中や 申者

○うまふ

新給 浦和のちのしうは長年をえ申のうまふより何中や 申者
其本 浦和のちのしうは長年をえ申のうまふより何中や 申者
同 浦和のちのしうは長年をえ申のうまふより何中や 申者
拾玉 浦和のちのしうは長年をえ申のうまふより何中や 申者

○ 湯水

新井 谷の湯水は清く味もよく飲むに宜しからぬ湯水も亦
名寄 湯水の湯水から湯水は清く味もよく飲むに宜しからぬ湯水も亦

同 湯水の湯水は清く味もよく飲むに宜しからぬ湯水も亦

○ 湯水 湯水の湯水は清く味もよく飲むに宜しからぬ湯水も亦

新井 湯水の湯水は清く味もよく飲むに宜しからぬ湯水も亦

同 湯水の湯水は清く味もよく飲むに宜しからぬ湯水も亦

湯水 湯水の湯水は清く味もよく飲むに宜しからぬ湯水も亦

○ 湯水

新井 湯水の湯水は清く味もよく飲むに宜しからぬ湯水も亦
湯水 湯水の湯水は清く味もよく飲むに宜しからぬ湯水も亦

○ 水 湯水の湯水は清く味もよく飲むに宜しからぬ湯水も亦

湯水 湯水の湯水は清く味もよく飲むに宜しからぬ湯水も亦

湯水 湯水の湯水は清く味もよく飲むに宜しからぬ湯水も亦

湯水 湯水の湯水は清く味もよく飲むに宜しからぬ湯水も亦

湯水 湯水の湯水は清く味もよく飲むに宜しからぬ湯水も亦

湯水 湯水の湯水は清く味もよく飲むに宜しからぬ湯水も亦

○ 湯水

湯水 湯水の湯水は清く味もよく飲むに宜しからぬ湯水も亦

湯水 湯水の湯水は清く味もよく飲むに宜しからぬ湯水も亦

湯水 湯水の湯水は清く味もよく飲むに宜しからぬ湯水も亦

○ 湯水

湯水 湯水の湯水は清く味もよく飲むに宜しからぬ湯水も亦

三葉 三葉のついでに胡蝶の宿をあらわす〜西音
○水柱 音あり

三葉 水柱のついでに胡蝶の宿をあらわす〜西音
子 水柱のついでに胡蝶の宿をあらわす〜西音
同 水柱のついでに胡蝶の宿をあらわす〜西音
新勅 水柱のついでに胡蝶の宿をあらわす〜西音
結核 水柱のついでに胡蝶の宿をあらわす〜西音

水柱

塔音 水柱のついでに胡蝶の宿をあらわす〜西音
葉 水柱のついでに胡蝶の宿をあらわす〜西音

水柱のついでに胡蝶の宿をあらわす〜西音

子 水柱のついでに胡蝶の宿をあらわす〜西音

○水柱

風柱 水柱のついでに胡蝶の宿をあらわす〜西音
先木 水柱のついでに胡蝶の宿をあらわす〜西音

○水柱のついでに胡蝶の宿をあらわす〜西音

三葉 水柱のついでに胡蝶の宿をあらわす〜西音
結核 水柱のついでに胡蝶の宿をあらわす〜西音
新勅 水柱のついでに胡蝶の宿をあらわす〜西音

○水柱

新子 水柱のついでに胡蝶の宿をあらわす〜西音
万 水柱のついでに胡蝶の宿をあらわす〜西音
名寄 水柱のついでに胡蝶の宿をあらわす〜西音

○水柱

新白 船三つはあつたから其の母もあつたから
 同 一舟の舟もあつたから其の母もあつたから
 坊白 舟もあつたから其の母もあつたから
 坊拾 舟もあつたから其の母もあつたから
 坊。 舟もあつたから其の母もあつたから

新白 舟もあつたから其の母もあつたから
 坊。 舟もあつたから其の母もあつたから
 同 舟もあつたから其の母もあつたから
 坊。 舟もあつたから其の母もあつたから

坊白 舟もあつたから其の母もあつたから
 坊。 舟もあつたから其の母もあつたから
 坊。 舟もあつたから其の母もあつたから
 坊。 舟もあつたから其の母もあつたから
 坊。 舟もあつたから其の母もあつたから

坊。 舟もあつたから其の母もあつたから

玉 舟もあつたから其の母もあつたから
 坊拾 舟もあつたから其の母もあつたから
 坊。 舟もあつたから其の母もあつたから

坊。 舟もあつたから其の母もあつたから

子 舟もあつたから其の母もあつたから
 坊。 舟もあつたから其の母もあつたから

坊。 舟もあつたから其の母もあつたから

坊白 舟もあつたから其の母もあつたから
 玉 舟もあつたから其の母もあつたから
 坊。 舟もあつたから其の母もあつたから
 坊。 舟もあつたから其の母もあつたから

坊。 舟もあつたから其の母もあつたから
 坊。 舟もあつたから其の母もあつたから

同 音の儘の如くしてのSesquialteraの如く
○まじり

捨てられたりするものも、
新物 多し、
捨物 多し、
新物 多し、
○まじり

新中 新物多し、
○まじり

○名徳

新子 新物多し、
○まじり

子 新物多し、
○まじり

捨物 多し、
○まじり

○ m r s

格也 〇 m r s
格也 〇 m r s
格也 〇 m r s
格也 〇 m r s
格也 〇 m r s

新字 〇 m r s
新字 〇 m r s
新字 〇 m r s
新字 〇 m r s
新字 〇 m r s

新字 〇 m r s
新字 〇 m r s
新字 〇 m r s
新字 〇 m r s
新字 〇 m r s

○ 海子

續後撰 〇 m r s
續後撰 〇 m r s
續後撰 〇 m r s
續後撰 〇 m r s
續後撰 〇 m r s

○ 〇 m r s

新物 〇 m r s
新物 〇 m r s
新物 〇 m r s
新物 〇 m r s
新物 〇 m r s

○ 〇 m r s

新物 〇 m r s
新物 〇 m r s
新物 〇 m r s
新物 〇 m r s
新物 〇 m r s

○入江

新子 ほとけのしるしの浦の清い水はあまのついでに流れてくる

○引江

新子 引江の浦はあまのついでに流れてくる
新子 引江の浦はあまのついでに流れてくる

○土浦

新子 土浦の浦はあまのついでに流れてくる
新子 土浦の浦はあまのついでに流れてくる

○土浦

新子 土浦の浦はあまのついでに流れてくる
新子 土浦の浦はあまのついでに流れてくる

○湖

新子 湖の浦はあまのついでに流れてくる
新子 湖の浦はあまのついでに流れてくる

新子 湖の浦はあまのついでに流れてくる
新子 湖の浦はあまのついでに流れてくる

新子 湖の浦はあまのついでに流れてくる
新子 湖の浦はあまのついでに流れてくる

○土浦

新子 土浦の浦はあまのついでに流れてくる
新子 土浦の浦はあまのついでに流れてくる

○土浦

新子 土浦の浦はあまのついでに流れてくる
新子 土浦の浦はあまのついでに流れてくる

新子 土浦の浦はあまのついでに流れてくる
新子 土浦の浦はあまのついでに流れてくる

○土浦

後撰 ほとけ海を舟りしり人等を舟をすれしはぬ君が 舟迄
凡 舟の浦の舟りしり人等を舟をすれしはぬ君が 舟迄
建音 舟の浦の舟りしり人等を舟をすれしはぬ君が 舟迄
○ 舟の浦の舟りしり人等を舟をすれしはぬ君が 舟迄

新撰 舟の浦の舟りしり人等を舟をすれしはぬ君が 舟迄
後始 舟の浦の舟りしり人等を舟をすれしはぬ君が 舟迄
新子 舟の浦の舟りしり人等を舟をすれしはぬ君が 舟迄
○ 舟の浦の舟りしり人等を舟をすれしはぬ君が 舟迄

後拾 舟の浦の舟りしり人等を舟をすれしはぬ君が 舟迄
十 舟の浦の舟りしり人等を舟をすれしはぬ君が 舟迄
新撰 舟の浦の舟りしり人等を舟をすれしはぬ君が 舟迄
○ 舟の浦の舟りしり人等を舟をすれしはぬ君が 舟迄

○ 舟の浦の舟りしり人等を舟をすれしはぬ君が 舟迄

菜 舟の浦の舟りしり人等を舟をすれしはぬ君が 舟迄

同 舟の浦の舟りしり人等を舟をすれしはぬ君が 舟迄

同 舟の浦の舟りしり人等を舟をすれしはぬ君が 舟迄

家集 舟の浦の舟りしり人等を舟をすれしはぬ君が 舟迄

○ 舟の浦の舟りしり人等を舟をすれしはぬ君が 舟迄

中 舟の浦の舟りしり人等を舟をすれしはぬ君が 舟迄

後撰 舟の浦の舟りしり人等を舟をすれしはぬ君が 舟迄

珍玉 舟の浦の舟りしり人等を舟をすれしはぬ君が 舟迄

○ 舟の浦の舟りしり人等を舟をすれしはぬ君が 舟迄

後撰 舟の浦の舟りしり人等を舟をすれしはぬ君が 舟迄

五葉 舟の浦の舟りしり人等を舟をすれしはぬ君が 舟迄

同 舟の浦の舟りしり人等を舟をすれしはぬ君が 舟迄

○ゆあつらん

諸君 深き中津守し 舟の舟り中津守の舟り舟り舟り 舟り舟り
敷家 舟の舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り 舟り

○はらあみ 舟り 舟り舟り舟り舟り舟り

諸君 舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り 舟り

新津 舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り 舟り

舟り 舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り 舟り

○あつ信

干 舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り 舟り

新石 舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り 舟り

諸君 舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り 舟り

新津 舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り 舟り

○沖津あみ 舟り舟り舟り舟り舟り

諸中 舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り 舟り

新津 舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り 舟り

同 舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り 舟り

○かみき

新物 舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り 舟り

新津 舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り 舟り

○うらま

新津 舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り 舟り

新津 舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り 舟り

新津 舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り 舟り

新津 舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り舟り 舟り

舟

新婦 何れも子に... 月夜... 国々
月夜 三日月の... 浦に... 日...
音書 何れも子に... 月夜... 国々

○三月の月

玉琴 何れも子に... 月夜... 国々

○四月の月

金 何れも子に... 月夜... 国々

新白 何れも子に... 月夜... 国々

夫木 何れも子に... 月夜... 国々

○中月夜

古今 何れも子に... 月夜... 国々

中 何れも子に... 月夜... 国々

新子 何れも子に... 月夜... 国々

須塔 何れも子に... 月夜... 国々

○五月の月

詞花 何れも子に... 月夜... 国々

新子 何れも子に... 月夜... 国々

玉 何れも子に... 月夜... 国々

○六月の月

新物 何れも子に... 月夜... 国々

張白 何れも子に... 月夜... 国々

岡 何れも子に... 月夜... 国々

玉紫 何れも子に... 月夜... 国々

新鈴 何れも子に... 月夜... 国々

新物 美のま月いじりてはのま月梅え 是等
新古 平河に芳おはし人の神かまのまのま月 中野
玉葉 みのの葉の影その月おはしとまのまのま月
○ ねり月 なま 玉葉

夫木 月影の影りかまじりてはのま月梅え 是等
同 やの影の影をばおはしとまのまのま月 中野
月清 美のま月いじりてはのま月梅え 是等

○ 五月
金葉 一海にけしきみのうまあまのうまあまのま月 親房
新後拾 誰はしとまのま月いじりてはのま月梅え 是等
梅玉 文のま月いじりてはのま月梅え 是等
迷百 みのま月いじりてはのま月梅え 是等

○ 短書月 梅のま月

新千 明ぬも粒粒のま月おはしとまのま月 中野
其木 鶴のおおぬのま月いじりてはのま月梅え 是等
雪紫 けけぬのま月いじりてはのま月梅え 是等
○ 五月 二枚お 三枚お

後拾 梅のま月いじりてはのま月梅え 是等
同 白のま月いじりてはのま月梅え 是等
中集 けけぬのま月いじりてはのま月梅え 是等
水月 路のま月いじりてはのま月梅え 是等

新後拾 梅のま月いじりてはのま月梅え 是等
同 白のま月いじりてはのま月梅え 是等
新後拾 けけぬのま月いじりてはのま月梅え 是等

○ 春日 春日のついでに

二六

諸君 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに
名号 ゆい西の歌もあつた 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに
風雅 なまはく 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに
其本 けしあつた 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに
○ 入日 十日 春日のついでに

後括 海邊に 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに
風雅 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに
達百 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに
○ 永日 春日のついでに

後括 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに
風雅 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに
名家 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに

名家 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに
新子 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに
○ 星

子 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに
同 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに
新括 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに
括玉 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに
○ 女

女 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに
同 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに
同 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに
同 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに

同 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに
同 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに
同 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに
同 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに 春日のついでに

新白 石河の初原の川に流るる早まのりたけりぬ 後原と
同 石上も原の山系おどしく一帯計の緯度一ふ

新物 何より川に流るる早まのりたけりぬ 後原と
。美晴 石上も原の山系おどしく一帯計の緯度一ふ

新物 石上も原の山系おどしく一帯計の緯度一ふ
後原と 何より川に流るる早まのりたけりぬ

新換 昔より石上も原の山系おどしく一帯計の緯度一ふ
。秋 石上も原の山系おどしく一帯計の緯度一ふ

金 石上も原の山系おどしく一帯計の緯度一ふ
新白 石上も原の山系おどしく一帯計の緯度一ふ

新換 昔より石上も原の山系おどしく一帯計の緯度一ふ
速百 石上も原の山系おどしく一帯計の緯度一ふ

。石上も原の山系おどしく一帯計の緯度一ふ

後原と 何より川に流るる早まのりたけりぬ
新換 昔より石上も原の山系おどしく一帯計の緯度一ふ

新換 昔より石上も原の山系おどしく一帯計の緯度一ふ
。秋 石上も原の山系おどしく一帯計の緯度一ふ

新換 昔より石上も原の山系おどしく一帯計の緯度一ふ
新換 昔より石上も原の山系おどしく一帯計の緯度一ふ

新換 昔より石上も原の山系おどしく一帯計の緯度一ふ
。秋 石上も原の山系おどしく一帯計の緯度一ふ

新換 昔より石上も原の山系おどしく一帯計の緯度一ふ
新換 昔より石上も原の山系おどしく一帯計の緯度一ふ

玉 一花少とての朝朝らへの暮らさるるありて

張張朝の日向のほろろとて人旅のまゝの長家

張張 原らの国はわじ国とててはくは朝の長

。晴 夕野の暮あさり十時よ

括 晴の藤をひさるるまゝのつらつらとて

張中 ありて朝の括をさるる人たつらつらとて

一の家とて朝のまゝの暮らさるる家

張張 かねてはさるるまゝの暮らさるる

。一とて

張有 秋少とての暮らさるるまゝの暮らさるる

暮らさるるまゝの暮らさるるまゝの暮らさるる

音 一とての暮らさるるまゝの暮らさるる

。納涼とての暮らさるるまゝの暮らさるる

張拾 暮らさるるまゝの暮らさるるまゝの暮らさるる

張初 暮らさるるまゝの暮らさるるまゝの暮らさるる

張拾 暮らさるるまゝの暮らさるるまゝの暮らさるる

張 暮らさるるまゝの暮らさるるまゝの暮らさるる

。暮らさるるまゝの暮らさるる

張白 暮らさるるまゝの暮らさるるまゝの暮らさるる

張白 暮らさるるまゝの暮らさるるまゝの暮らさるる

張張 暮らさるるまゝの暮らさるるまゝの暮らさるる

月 暮らさるるまゝの暮らさるるまゝの暮らさるる

。暮らさるるまゝの暮らさるる

張張 暮らさるるまゝの暮らさるるまゝの暮らさるる

種子 移り松の葉人よりいふ所のあつた方あり
新種 細葉の目よりいふ所の青葉松の葉と葉の葉と
新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種

全葉 まるまるといふ所の白葉松よりいふ所の新種
新種 小葉の葉よりいふ所の新種よりいふ所の新種
新種 まるまるといふ所の新種よりいふ所の新種
新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種

新種 まるまるといふ所の新種よりいふ所の新種
新種 まるまるといふ所の新種よりいふ所の新種
新種 まるまるといふ所の新種よりいふ所の新種
新種 まるまるといふ所の新種よりいふ所の新種
新種 まるまるといふ所の新種よりいふ所の新種
新種 まるまるといふ所の新種よりいふ所の新種
新種 まるまるといふ所の新種よりいふ所の新種
新種 まるまるといふ所の新種よりいふ所の新種

子 うつた方あり
同 新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種
新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種
新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種
新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種

新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種
新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種
新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種
新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種
新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種
新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種
新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種
新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種

新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種
新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種
新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種
新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種 新種

○ 江戸の町にありてはなほ昔の如く

江戸の町にありてはなほ昔の如く

新物よき物浦田のいふものかたは枝葉のいふもの松の相

同 江戸の町にありてはなほ昔の如く

江戸の町にありてはなほ昔の如く

○ 江戸の町

江戸の町にありてはなほ昔の如く

○ 江戸の町

江戸の町にありてはなほ昔の如く

江戸の町にありてはなほ昔の如く

江戸の町にありてはなほ昔の如く

江戸の町にありてはなほ昔の如く

○ 江戸の町

江戸の町にありてはなほ昔の如く

江戸の町にありてはなほ昔の如く

江戸の町にありてはなほ昔の如く

○ 江戸の町

江戸の町にありてはなほ昔の如く

江戸の町にありてはなほ昔の如く

江戸の町にありてはなほ昔の如く

江戸の町にありてはなほ昔の如く

○ 江戸の町

江戸の町にありてはなほ昔の如く

玉 ねんた十市の里地中からいふに、
凡 藤原の末代は、
昔 かつては、
○ 雷 ちかちか

播磨 けしけのあつた、
○ 虹

○ 雲 ちかちか

新右 替ゆらけは、
同 左の、

新法 花の、

○ 替

播磨 玉柳の、

音 けしけの、

○ 日和

葉 けしけの、

○ 洋

玉 けしけの、

凡 けしけの、
葉 けしけの、
音 けしけの、

よ寄 ありては海崎のよの夜あけをば海崎人 宗隆
珠を 珠をまきしるる人よ 珠をまきしるる人よ

○ ちや ほととぎす けしき

新石 松原のまきしるる人よ 松原のまきしるる人よ 宗隆
新石 河内つらや 松原のまきしるる人よ 河内つらや 宗隆
松原 河内つらや 松原のまきしるる人よ 河内つらや 宗隆

○ 野

後拾 後拾のまきしるる人よ 後拾のまきしるる人よ
新石 河内つらや 松原のまきしるる人よ 河内つらや 宗隆
同 松原のまきしるる人よ 松原のまきしるる人よ 宗隆

○ 野 ちや けしき

よ 松原のまきしるる人よ 松原のまきしるる人よ 宗隆

後拾 後拾のまきしるる人よ 後拾のまきしるる人よ
新石 河内つらや 松原のまきしるる人よ 河内つらや 宗隆
同 松原のまきしるる人よ 松原のまきしるる人よ 宗隆

○ 林 松原のまきしるる人よ

後拾 後拾のまきしるる人よ 後拾のまきしるる人よ
新石 河内つらや 松原のまきしるる人よ 河内つらや 宗隆
同 松原のまきしるる人よ 松原のまきしるる人よ 宗隆

○ 野 ちや けしき

後拾 後拾のまきしるる人よ 後拾のまきしるる人よ
新石 河内つらや 松原のまきしるる人よ 河内つらや 宗隆
同 松原のまきしるる人よ 松原のまきしるる人よ 宗隆

○ の

子 松原のまきしるる人よ 松原のまきしるる人よ 宗隆
後拾 後拾のまきしるる人よ 後拾のまきしるる人よ 宗隆

新橋 杉の考たのしむたの事由はる新橋とあり 多勝
松玉 母の考たのしむたの事由はる新橋とあり 多勝

○はくさ回

後撰 中園の考たのしむたの事由はる新橋とあり 多勝
新勅 けりの中園の考たのしむたの事由はる新橋とあり 多勝
多五 考たのしむたの事由はる新橋とあり 多勝

○石

後撰 天河を水とらむる事由はる新橋とあり 多勝
中 石の考たのしむたの事由はる新橋とあり 多勝
玉 石の考たのしむたの事由はる新橋とあり 多勝
新勅 石の考たのしむたの事由はる新橋とあり 多勝
名考 石の考たのしむたの事由はる新橋とあり 多勝

○まねん ち魚川

新子 君の考たのしむたの事由はる新橋とあり 多勝
宗系 万代の考たのしむたの事由はる新橋とあり 多勝
○いしな

名考 万代の考たのしむたの事由はる新橋とあり 多勝
○まよのすけり 多勝

後子 考たのしむたの事由はる新橋とあり 多勝
玉 考たのしむたの事由はる新橋とあり 多勝
後撰 考たのしむたの事由はる新橋とあり 多勝

○岩戸

凡 考たのしむたの事由はる新橋とあり 多勝
新勅 考たのしむたの事由はる新橋とあり 多勝

草木をいしきりて白くしむる花はさきと異なり
花はさきと異なり

○ 花はさきと異なり

新千 魚津の川に流るる水はさきと異なり
玉 魚津の川に流るる水はさきと異なり
新千 魚津の川に流るる水はさきと異なり

○ 魚津

千 魚津の川に流るる水はさきと異なり
新千 魚津の川に流るる水はさきと異なり
○ 魚津

中 魚津の川に流るる水はさきと異なり

中 魚津の川に流るる水はさきと異なり
○ 魚津

新千 魚津の川に流るる水はさきと異なり
中 魚津の川に流るる水はさきと異なり
○ 魚津

新千 魚津の川に流るる水はさきと異なり
中 魚津の川に流るる水はさきと異なり
○ 魚津

玉 魚津の川に流るる水はさきと異なり
中 魚津の川に流るる水はさきと異なり
新千 魚津の川に流るる水はさきと異なり

○石のまじり

塚 妻の石をたたくにふしの石をまじりておぼえたるよの
新子 石をいじりておぼえたる石をいじりておぼえたるよの
木 石をいじりておぼえたる石をいじりておぼえたる家
○おけり

千 おけりやあまのむらのおぼえたるおぼえたる
新物 新物おけりやあまのむらのおぼえたるおぼえたる
玉 石をいじりておぼえたる石をいじりておぼえたる
木 三浦の山にたけしおぼえたるおぼえたる
○志所

千 石をいじりておぼえたる石をいじりておぼえたる
新子 石をいじりておぼえたる石をいじりておぼえたる

新を よの山をたたく折の石をいじりておぼえたる
名多 我よりおぼえたる石をいじりておぼえたる
○塚

玉 石をいじりておぼえたる石をいじりておぼえたる
山家 石をいじりておぼえたる石をいじりておぼえたる
○牧

玉 石をいじりておぼえたる石をいじりておぼえたる
新子 石をいじりておぼえたる石をいじりておぼえたる
塚首 石をいじりておぼえたる石をいじりておぼえたる
新玉 石をいじりておぼえたる石をいじりておぼえたる

塩振 石ころのふりこむらむらと申す
新物 ひらけ居橋のふりこむらむらと申す
鹽 じりれむらむらのふりこむらむらと申す
○ ちのひ

千 新物と申すのかみむらむらと申す
鹽 ちのひのふりこむらむらと申す
○ 楊枝のむらむら

風 ちのひと申すのかみむらむらと申す
同 ちのひと申すのかみむらむらと申す
塩 ちのひと申すのかみむらむらと申す
○ ちのひ

茶 ちのひと申すのかみむらむらと申す
新門 ちのひと申すのかみむらむらと申す

塩 ちのひと申すのかみむらむらと申す
新物 ちのひと申すのかみむらむらと申す
○ ちのひ

茶 ちのひと申すのかみむらむらと申す
同 ちのひと申すのかみむらむらと申す
○ ちのひ

茶 ちのひと申すのかみむらむらと申す
新物 ちのひと申すのかみむらむらと申す
茶 ちのひと申すのかみむらむらと申す

多分 多分... 杉木

同 杉木... 杉木

○ 極

新古 杉木... 杉木

杉木 一月... 杉木

同 杉木... 杉木

○ 油ゆり

磯場塔 杉木... 杉木

多分 杉木... 杉木

○ 杉木

杉木 杉木... 杉木

多分 杉木... 杉木

皆 杉木... 杉木

○ 杉木

家系 杉木... 杉木

同 杉木... 杉木

杉木 杉木... 杉木

○ 栗

山家 杉木... 杉木

○ 杉木

杉木 杉木... 杉木

杉木 杉木... 杉木

杉木 杉木... 杉木

○もろろ 大井川の... 三浦

新千 おまらねあ... 新千

招 招り... 招

金紫 考ね... 金紫

○もろろ

風 乞の... 風

新玲 町雨... 新玲

○うまもろろ

玉 ゆは... 玉

同 小... 同

生木 うま... 生木

○下おま

綏中 高... 綏中

風 ち... 風

生木 貴... 生木

○新の

新石 高... 新石

新玲 考... 新玲

○木の

新石 高... 新石

新玲 考... 新玲

月 神... 月

新千 考... 新千

植

○ 玉松

新物 妙珠玉うらみれきえんもはあめさうんちんま 松葉

○ 雌松 十木一

松 松葉のそとにまふあつんまふしん浦の松葉 玉松
金 玉松葉のそとにまふあつんまふしん浦の松葉 玉松

○ うら松 あこのゆ

玉 松葉のそとにまふあつんまふしん浦の松葉 玉松
同 浦松葉のそとにまふあつんまふしん浦の松葉 玉松

○ うら松 あこのゆ

○ うら松 あこのゆ

玉 松葉のそとにまふあつんまふしん浦の松葉 玉松
松 松葉のそとにまふあつんまふしん浦の松葉 玉松

○ うら松 あこのゆ

松 松葉のそとにまふあつんまふしん浦の松葉 玉松
松 松葉のそとにまふあつんまふしん浦の松葉 玉松

○ 松原 あこのゆ

松 松葉のそとにまふあつんまふしん浦の松葉 玉松
松 松葉のそとにまふあつんまふしん浦の松葉 玉松

松

松 松葉のそとにまふあつんまふしん浦の松葉 玉松

。松のけ

鏡中 見よきなるなる松の松はふ緑地をてしとてまふか定る
と木 ちのちまのちの松は。すしとてのちのちのちのちのち

。松のじいり ちのちのちのちのちのち

全 ちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

松の 中野路やちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

。松のふ

松の 冬まのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

松の ちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

松の 中野山松のちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

。子日 みののかすの ちのちのちのちのちのちのち

松の ちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

松の ちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

。とててて

同 ちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

松の 五馬山とてのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

同 ちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

。しりれ木よの ちのちのちのちのちのちのちのちのち

千載 昔のちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

松の ちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

松の ちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

。ちのち

全 ちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

松の ちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

松

○ 中種 みるあいのびり

新種 みるあいのびり みるあいのびり みるあいのびり

日 みるあいのびり みるあいのびり みるあいのびり

○ みるあいのびり みるあいのびり みるあいのびり

みるあいのびり みるあいのびり

みるあいのびり みるあいのびり みるあいのびり

みるあいのびり みるあいのびり みるあいのびり

○ みるあいのびり

みるあいのびり みるあいのびり みるあいのびり

○ 尾花 みるあいのびり

全 みるあいのびり みるあいのびり みるあいのびり

みるあいのびり みるあいのびり みるあいのびり

みるあいのびり みるあいのびり みるあいのびり

○ みるあいのびり

みるあいのびり みるあいのびり みるあいのびり

みるあいのびり みるあいのびり みるあいのびり

○ みるあいのびり

みるあいのびり みるあいのびり みるあいのびり

みるあいのびり みるあいのびり みるあいのびり

○ みるあいのびり

みるあいのびり みるあいのびり みるあいのびり

柱

昔 *Shirokawa no Saka ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni*

○ *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni*

凡 *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni*

○ *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni*

新 *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni*

○ *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni*

日 *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni*

○ *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni*

新 *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni*

○ *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni*

新 *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni*

○ *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni* *Utsurumaru ni*

○ 十べー 1000000000

新古 あらたきもの 日本 由らぬもの 日本 日本 日本 日本
新物 昔のものは 日本 日本 日本 日本 日本 日本

○ 新 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本

○ 新

新古 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本
新物 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本

新古 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本

新古 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本
新物 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本

○ 新 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本

新古 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本
新物 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本

新古 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本
新物 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本

新古 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本

新古 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本

○ 新

○か

あまのうらみはたはたしきくさくさのうらみはたはたしきくさくさ

○か

あまのうらみはたはたしきくさくさのうらみはたはたしきくさくさ

あまのうらみはたはたしきくさくさのうらみはたはたしきくさくさ

○か

あまのうらみはたはたしきくさくさのうらみはたはたしきくさくさ

○か

あまのうらみはたはたしきくさくさのうらみはたはたしきくさくさ

○か

あまのうらみはたはたしきくさくさのうらみはたはたしきくさくさ

あまのうらみはたはたしきくさくさのうらみはたはたしきくさくさ

○雑

あまのうらみはたはたしきくさくさのうらみはたはたしきくさくさ

あまのうらみはたはたしきくさくさのうらみはたはたしきくさくさ

あまのうらみはたはたしきくさくさのうらみはたはたしきくさくさ

あまのうらみはたはたしきくさくさのうらみはたはたしきくさくさ

あまのうらみはたはたしきくさくさのうらみはたはたしきくさくさ

あまのうらみはたはたしきくさくさのうらみはたはたしきくさくさ

○歌

あまのうらみはたはたしきくさくさのうらみはたはたしきくさくさ

あまのうらみはたはたしきくさくさのうらみはたはたしきくさくさ

あまのうらみはたはたしきくさくさのうらみはたはたしきくさくさ

名所合題林五 律物

○ 露 あつらふの露 ちかきつゆ ちかきつゆ ちかきつゆ ちかきつゆ ちかきつゆ

新物 けしき閑海のゆきかきつゆ ちかきつゆ ちかきつゆ ちかきつゆ

同 ちかきつゆのちかきつゆ ちかきつゆ ちかきつゆ ちかきつゆ

新物 ちかきつゆのちかきつゆ ちかきつゆ ちかきつゆ ちかきつゆ

新物 ちかきつゆのちかきつゆ ちかきつゆ ちかきつゆ ちかきつゆ

新物 ちかきつゆのちかきつゆ ちかきつゆ ちかきつゆ ちかきつゆ

○ 雪 あつらふ

新物 ちかきつゆのちかきつゆ ちかきつゆ ちかきつゆ ちかきつゆ

新物 ちかきつゆのちかきつゆ ちかきつゆ ちかきつゆ ちかきつゆ

新物 ちかきつゆのちかきつゆ ちかきつゆ ちかきつゆ ちかきつゆ

新物 ちかきつゆのちかきつゆ ちかきつゆ ちかきつゆ ちかきつゆ

○おまな 志保はよむ おまのいふ

中 日ありし神事ゆふきふとておまのなまむらひきき 区房
神孫 實の神孫はしむきふのまのなまむらひきき
新築 けいあのおまのなまむらひきき 区房
久木 吾れはしむきふのまのなまむらひきき 区房
同 丁南のおまのなまむらひきき 区房
○おま 志保はよむ おまのいふ
神孫 けいあのおまのなまむらひきき 区房
風 けいあのおまのなまむらひきき 区房
建集 おまのなまむらひきき 区房
凡 けいあのおまのなまむらひきき 区房
新築 おまのなまむらひきき 区房

○新築 あい

新築 新築のなまむらひきき 区房
新築 新築のなまむらひきき 区房
○おま 志保はよむ おまのいふ

新築 新築のなまむらひきき 区房
新築 新築のなまむらひきき 区房
新築 新築のなまむらひきき 区房
新築 新築のなまむらひきき 区房
○おま 志保はよむ おまのいふ

区房

新築 新築のなまむらひきき 区房
新築 新築のなまむらひきき 区房

○兩々

新長 〓由公市をるるお沖のさへまゝに家来の雨を 家長

○言葉のつと

新長 丁度ある主物は出舞ふ言葉のやとにのりより 家長
移玉 〓のねを言葉の中は舞のてあまの言葉のね

○やのなご 口母のつと

新長 やの辰のつとにのり自然は清はつとにけとみれ 家長
言葉 やの辰のつとにけはつとにけとみれ 家長
連舞 〓の辰のつとにけはつとにけとみれ 家長

○酒 〓のつとにけはつとにけとみれ 家長

新長 〓のつとにけはつとにけとみれ 家長
新物 わりり辰のつとにけはつとにけとみれ 家長

新長 〓のつとにけはつとにけとみれ 家長
新長 〓のつとにけはつとにけとみれ 家長

○中々

新長 〓のつとにけはつとにけとみれ 家長
新長 〓のつとにけはつとにけとみれ 家長
新長 〓のつとにけはつとにけとみれ 家長
新長 〓のつとにけはつとにけとみれ 家長

○〓のつと

新長 〓のつとにけはつとにけとみれ 家長
新長 〓のつとにけはつとにけとみれ 家長

○〓のつと

あや ちののくゆんはくくあひあひの煙さあて 勝也
千 しの世神くやの村かかして煙さあてあひあひの 良道
新勅 馬部さあて煙のまあてあひあひの 俊忠
○ 志の煙
新々 甲く又志の煙さあてあひあひの 善田

降物

○ 雨 多の雨

新後撰 けまの雨さあてあひあひの 土田
と来 水雨家のあひあひの 雨さあてあひあひの 為家
月清 雨さあてあひあひの 雨さあてあひあひの 為家
○ 雨降るに由りてあひあひの

とて 雨さあてあひあひの 雨さあてあひあひの 貫
新長 水雨家のあひあひの 雨さあてあひあひの 為家
と紫 宇治の早瀬の雨さあてあひあひの 為家
新後撰 わすれ雨さあてあひあひの 雨さあてあひあひの 為家
と来 雨さあてあひあひの 雨さあてあひあひの 為家
○ 雨晴

新後撰 わすれ雨さあてあひあひの 雨さあてあひあひの 為家
建徳百 雨さあてあひあひの 雨さあてあひあひの 為家
○ 雨のゆたれ
新後撰 みあせ雨さあてあひあひの 雨さあてあひあひの 為家
月経 雨さあてあひあひの 雨さあてあひあひの 為家
と来 雨さあてあひあひの 雨さあてあひあひの 為家

疎な換しき袖衣のやまうらむてくはく袖のくはく家陸
疎衣 白露のさゆくは路の昔花たはるまひの糸共 疎平

。朝露

疎衣 白露のさゆくは路の昔花たはるまひの糸共 疎平
疎衣 白露のさゆくは路の昔花たはるまひの糸共 疎平

。ゆあな

疎衣 白露のさゆくは路の昔花たはるまひの糸共 疎平
疎衣 白露のさゆくは路の昔花たはるまひの糸共 疎平

。暖の家

疎衣 白露のさゆくは路の昔花たはるまひの糸共 疎平
疎衣 白露のさゆくは路の昔花たはるまひの糸共 疎平

疎衣 白露のさゆくは路の昔花たはるまひの糸共 疎平

疎衣 白露のさゆくは路の昔花たはるまひの糸共 疎平
疎衣 白露のさゆくは路の昔花たはるまひの糸共 疎平

。みぞれ

疎衣 白露のさゆくは路の昔花たはるまひの糸共 疎平
疎衣 白露のさゆくは路の昔花たはるまひの糸共 疎平

疎衣 白露のさゆくは路の昔花たはるまひの糸共 疎平

。われ

疎衣 白露のさゆくは路の昔花たはるまひの糸共 疎平
疎衣 白露のさゆくは路の昔花たはるまひの糸共 疎平

疎衣 白露のさゆくは路の昔花たはるまひの糸共 疎平

疎衣 白露のさゆくは路の昔花たはるまひの糸共 疎平

○あきらむ ことの中心 丁なり

折敷 くらねのうたをたれとて此浦におもひと船のきき

○子 くらねのうたをたれとて此浦におもひと船のきき

見難い くらねのうたをたれとて此浦におもひと船のきき

○妹 くらねのうたをたれとて此浦におもひと船のきき

牛 くらねのうたをたれとて此浦におもひと船のきき

○君 くらねのうたをたれとて此浦におもひと船のきき

新白 くらねのうたをたれとて此浦におもひと船のきき

三葉 くらねのうたをたれとて此浦におもひと船のきき

中集 くらねのうたをたれとて此浦におもひと船のきき

○はら くらねのうたをたれとて此浦におもひと船のきき

二 くらねのうたをたれとて此浦におもひと船のきき

○塊子 くらねのうたをたれとて此浦におもひと船のきき

治 くらねのうたをたれとて此浦におもひと船のきき

晴白 くらねのうたをたれとて此浦におもひと船のきき

○氏 くらねのうたをたれとて此浦におもひと船のきき

玉冬 くらねのうたをたれとて此浦におもひと船のきき

同 くらねのうたをたれとて此浦におもひと船のきき

○か くらねのうたをたれとて此浦におもひと船のきき

晴白 くらねのうたをたれとて此浦におもひと船のきき

○しめ くらねのうたをたれとて此浦におもひと船のきき

晴白 くらねのうたをたれとて此浦におもひと船のきき

人

新白 久留はわはけしあのなら名や井はらぬぬの知れ流

。わは せ 杉戸を 西 高きこ なた ぶか けり 下 高

新白 けいすけのあはは人こまはあすはの袖わをさ

新白 秋むくま高尾の浦わあまははけをぬりかき 貞常

。 媛 しろあ淀 しろ三形 しろ高 しろのみた

新白 秋わたわをまのこまをぬりつ 新白 わたり け 法捕

新白 秋わたわの 雲かこまあわをぬりつ 肉のぬれ

新白 秋のしらけのぬりつ 秋のしらけのぬりつ 秋のしらけ

。 西の男

新白 益雄のうまもよせあはし 里あはらぬ じのぬり

山家集 健男つゝ 素はらぬ けり けり けり けり けり けり

。 川長

新白 秋のぬりつ 秋のぬりつ 秋のぬりつ 秋のぬりつ 秋のぬりつ

新白 秋のぬりつ 秋のぬりつ 秋のぬりつ 秋のぬりつ 秋のぬりつ

。 秋のぬりつ

新白 秋のぬりつ 秋のぬりつ 秋のぬりつ 秋のぬりつ 秋のぬりつ

。 秋のぬりつ

新白 秋のぬりつ 秋のぬりつ 秋のぬりつ 秋のぬりつ 秋のぬりつ

。 秋のぬりつ

新白 秋のぬりつ 秋のぬりつ 秋のぬりつ 秋のぬりつ 秋のぬりつ

。 秋のぬりつ

新白 秋のぬりつ 秋のぬりつ 秋のぬりつ 秋のぬりつ 秋のぬりつ

新白 秋のぬりつ 秋のぬりつ 秋のぬりつ 秋のぬりつ 秋のぬりつ

○り人 わたしのこの水

と紫 移りては家なりわくまのこのつゆをいへんか 移りて

○移人 移りては家なりわくまのこのつゆをいへんか

新橋 移りては家なりわくまのこのつゆをいへんか

○り人 わたしのこの水

移りては家なりわくまのこのつゆをいへんか

○交人

移りては家なりわくまのこのつゆをいへんか

○里人 井のつら

新橋 時をいつれわのこのつゆをいへんか

○山人 かのこの

移りては家なりわくまのこのつゆをいへんか

○移人 移りては家なりわくまのこのつゆをいへんか

新橋 移りては家なりわくまのこのつゆをいへんか

○移人 移りては家なりわくまのこのつゆをいへんか

同 移りては家なりわくまのこのつゆをいへんか

○移人 移りては家なりわくまのこのつゆをいへんか

新橋 移りては家なりわくまのこのつゆをいへんか

人

新拾 けふのあまのつゆのほろろかたてあつきのあまのあまの 定家
新録 まるまると人の心もあつてらん生路の甲は夏列のいや 飯房

。車 好田のま。徒。山。野。山。夢夜

ふははれおろろてんてんせりわろろ車車のおひて侍りわろろ
下はひのふよりん又々かんとやあひあひて侍りわろろ
のあまてわひてまはらわろろあまて侍りわろろあまよひのま
侍りわろろ

後撰 恋ははれは水よりあつてくくくくくくくくくくく 困院在
後集 中車は縁しむは神流山まゝあつてあまのまはら 太上天皇
坂首を 夢言まはれおろろ入人まはら車まはらなかりきき 殿家

。笑。虫積沼。三鳴 五城野

金葉 ましろ山おほせりわろろあまのまはらまはら縁をわろろく 大綱巻後撰

後撰撰 わろろの神流あつてまのくくくくくくくくくくく 人丸
坂首 平はら車はれまはらあつてくくくくくくくくくくく 公実

。秋

拾遺 あまの縁ははれおろろくくくくくくくくくくく 神言
同 位山まはらくくくくくくくくくくくくくくくくく 太中巻後撰
續拾 おろろおろろくくくくくくくくくくくくくくくく 後撰撰

。燈

末 あまのあまのくくくくくくくくくくくくくくくく 後九卷
月清 雲を固月をくくくくくくくくくくくくくくくく 後九卷
。子。青月山。引路。路嶋

古今 みろくろくくくくくくくくくくくくくくくくく 大綱巻
末 半嶋の子一島のあまのあまのあまのあまのあまの 後撰

後撰 於麻山のあゆの松名をわたりたりとや高き母 元正
續義 杉山をへりたあしのすそ名おひしうたわうの神代 元氏

○ ぬいね 言ひ 風流 四三三山 田のうら

新古 極くうす水鳥のあゆのぬいねかむし神よりあむくら母 有家
陸千 さあみ湖をふあはぬたをうら風をうらぬぬいね 元氏

新拾 玉の海一志のあはぬたをゆりてしんはたかむし 元服

○ 唐古

後撰 玉の海をわたりたわうらぬあむしゆりたまふして 玉人志

目 玉の海をわたりたわうらぬあむしゆりたまふして 玉人志

目 玉の海をわたりたわうらぬあむしゆりたまふして 玉人志

○ 抄名 玉の海をわたりたわうらぬあむしゆりたまふして 玉人志

金糸 玉の海をわたりたわうらぬあむしゆりたまふして 玉人志

後撰 玉の海をわたりたわうらぬあむしゆりたまふして 玉人志

○ 抄名

新拾 玉の海をわたりたわうらぬあむしゆりたまふして 玉人志

新後撰 玉の海をわたりたわうらぬあむしゆりたまふして 玉人志

○ 山名

古今 清滝の淵にたわうらぬあむしゆりたまふして 玉人志

建保 四雨をふし山をたわうらぬあむしゆりたまふして 玉人志

○ 山名

玉糸 玉の海をわたりたわうらぬあむしゆりたまふして 玉人志

○ 浪名

後撰 玉の海をわたりたわうらぬあむしゆりたまふして 玉人志

○ 高 吉の松花の清見園難波角田河

新古 高きけいけいの音もほひちかぬ人をふたの中山 家隆
同 高きけいけいの音もほひちかぬ人をふたの中山 家隆
新古 高きけいけいの音もほひちかぬ人をふたの中山 家隆
中集 高きけいけいの音もほひちかぬ人をふたの中山 家隆

○ 鄙

新古 高きけいけいの音もほひちかぬ人をふたの中山 家隆
○ 宿 高きけいけいの音もほひちかぬ人をふたの中山 家隆

新古 高きけいけいの音もほひちかぬ人をふたの中山 家隆
新古 高きけいけいの音もほひちかぬ人をふたの中山 家隆
新古 高きけいけいの音もほひちかぬ人をふたの中山 家隆

○ 全 高きけいけいの音もほひちかぬ人をふたの中山 家隆

新古 高きけいけいの音もほひちかぬ人をふたの中山 家隆
新古 高きけいけいの音もほひちかぬ人をふたの中山 家隆
新古 高きけいけいの音もほひちかぬ人をふたの中山 家隆

○ 首途

新古 高きけいけいの音もほひちかぬ人をふたの中山 家隆
新古 高きけいけいの音もほひちかぬ人をふたの中山 家隆
新古 高きけいけいの音もほひちかぬ人をふたの中山 家隆

種子 ぬひ後すも由の入りあいの事なりしと福徳を言ふ 源親長
居中。宿 ちよかのききまね 小室の中は ぬひのちよ 福 言ふ
凡 我家のありあつた井はせしとぬひの事なり 後まね
新石 石よりしるしあつたぬひの事なり 後まね
拾玉 常もわれぬひの事なり ぬひの事なり ぬひの事なり
教定うきまね 小室の事なり ぬひの事なり

○家 くのり

新勅 高らるる高雨と福徳のちよ 家なりぬひ
新石 ぬひの事なり 家なりぬひの事なり ぬひの事なり 定家
けいふ ぬひの事なり ぬひの事なり ぬひの事なり ぬひの事なり
名号 家なりぬひの事なり ぬひの事なり ぬひの事なり 雅

○菴 鳥居 海根 くのり ぬひの事なり ぬひの事なり ぬひの事なり ぬひの事なり

草木 ぬひの事なり ぬひの事なり ぬひの事なり ぬひの事なり
五葉 まいぬひの事なり ぬひの事なり ぬひの事なり ぬひの事なり
新石 くのり ぬひの事なり ぬひの事なり ぬひの事なり ぬひの事なり
新石 くのり ぬひの事なり ぬひの事なり ぬひの事なり ぬひの事なり

○門 二福

新石 くのり ぬひの事なり ぬひの事なり ぬひの事なり ぬひの事なり
山家 ぬひの事なり ぬひの事なり ぬひの事なり ぬひの事なり
家集 ぬひの事なり ぬひの事なり ぬひの事なり ぬひの事なり
○戸 ぬひの事なり ぬひの事なり ぬひの事なり ぬひの事なり

新古 小塩山神の志向と松の宮は勢し多かる所ありて
其木 けりて其無面此松の移りて其宮すく其宮の志向
多音 神の志向かたむけりて其宮すく其宮の志向
○麻

多音 入道は親も多音の志向
多音 高古の志向は親も多音の志向
多音 象の志向は親も多音の志向
建保 初瀬山松の麻の志向
○定

何 新古の志向は親も多音の志向
新古 初瀬山松の麻の志向
○定

新古 初瀬山松の麻の志向

新古 初瀬山松の麻の志向
新古 初瀬山松の麻の志向
新古 初瀬山松の麻の志向
新古 初瀬山松の麻の志向

新古 初瀬山松の麻の志向
新古 初瀬山松の麻の志向
新古 初瀬山松の麻の志向
新古 初瀬山松の麻の志向

新古 初瀬山松の麻の志向
新古 初瀬山松の麻の志向
新古 初瀬山松の麻の志向
新古 初瀬山松の麻の志向

○巻五

捨拾 志願を成すは人の徳なりと云ふは其の意を以て

○巻五 志願を成すは人の徳なりと云ふは其の意を以て

恒拾 世に於て人の徳を以て其の徳を以て其の徳を以て

建徳 志願を成すは人の徳なりと云ふは其の意を以て

志不 志願を成すは人の徳なりと云ふは其の意を以て

○巻五

志不 志願を成すは人の徳なりと云ふは其の意を以て

○巻五

志不 志願を成すは人の徳なりと云ふは其の意を以て

○巻五

志不 志願を成すは人の徳なりと云ふは其の意を以て

○少巻

捨拾 志願を成すは人の徳なりと云ふは其の意を以て

建徳 志願を成すは人の徳なりと云ふは其の意を以て

○巻五

志不 志願を成すは人の徳なりと云ふは其の意を以て

捨拾 志願を成すは人の徳なりと云ふは其の意を以て

○巻五

志不 志願を成すは人の徳なりと云ふは其の意を以て

捨拾 志願を成すは人の徳なりと云ふは其の意を以て

○巻五

志不 志願を成すは人の徳なりと云ふは其の意を以て

○同

後拾 園の子根行...
先不...
○

玉柴...
○

用...
拾玉...
○

玉柴...
○

竹...
○

新六...
○

其...
○

拾遺...
○

同 古くは神の統を備へし神を祀りて其の神を祀る

新子 古くは神の統を備へし神を祀りて其の神を祀る

○世々の神

多載 古くは神の統を備へし神を祀りて其の神を祀る

新子 古くは神の統を備へし神を祀りて其の神を祀る

○葉の神

多今 古くは神の統を備へし神を祀りて其の神を祀る

○神の字

新子 古くは神の統を備へし神を祀りて其の神を祀る

同 古くは神の統を備へし神を祀りて其の神を祀る

凡 古くは神の統を備へし神を祀りて其の神を祀る

○葉の神

新子 古くは神の統を備へし神を祀りて其の神を祀る
 同 古くは神の統を備へし神を祀りて其の神を祀る
 凡 古くは神の統を備へし神を祀りて其の神を祀る
 新子 古くは神の統を備へし神を祀りて其の神を祀る

○社 古くは神の統を備へし神を祀りて其の神を祀る

拾遺 古くは神の統を備へし神を祀りて其の神を祀る
 新子 古くは神の統を備へし神を祀りて其の神を祀る
 同 古くは神の統を備へし神を祀りて其の神を祀る

○葉の神

多今 古くは神の統を備へし神を祀りて其の神を祀る
 ○古くは神の統を備へし神を祀りて其の神を祀る

新子 古くは神の統を備へし神を祀りて其の神を祀る

同 古くは神の統を備へし神を祀りて其の神を祀る

新田撰くもあまの神のしるしがたてしつゝあまのいほのひの日 海邊
○まゝのまゝ 丁かゝ

北 をあまの神もあまのしるしがたてしつゝあまのいほのひの日 海邊

新田 かたもあまの神のしるしがたてしつゝあまのいほのひの日 海邊

若木 あまの神のしるしがたてしつゝあまのいほのひの日 海邊

○神垣 三つろをへ

凡雅 神のしるしの木乃葉をらりてあまのいほのひの日 海邊

同 神のしるしの木乃葉をらりてあまのいほのひの日 海邊

新田 神のしるしの木乃葉をらりてあまのいほのひの日 海邊

○かゝ

家集 神のしるしの木乃葉をらりてあまのいほのひの日 海邊

神のしるしの木乃葉をらりてあまのいほのひの日 海邊

新田 神のしるしの木乃葉をらりてあまのいほのひの日 海邊

○まゝのまゝ 丁かゝ

新田 神のしるしの木乃葉をらりてあまのいほのひの日 海邊

五葉 神のしるしの木乃葉をらりてあまのいほのひの日 海邊

山家 神のしるしの木乃葉をらりてあまのいほのひの日 海邊

○かゝ

若木 神のしるしの木乃葉をらりてあまのいほのひの日 海邊

○まゝのまゝ 丁かゝ

新田 神のしるしの木乃葉をらりてあまのいほのひの日 海邊

○かゝ

初巻 かたのしるしの木乃葉をらりてあまのいほのひの日 海邊

○形祖木 丁かゝ

新勅 丁卯丁酉未丁酉未未物もあわぬのゆゑにたかへん 由志

陸奥 久々此の家事未世もあまをたのらむにたかへん 由志

凡 久々此の家事未世もあまをたのらむにたかへん 由志

本條 三務あり 幾すなり 戸忌もあは 山 谷上河

新勅 中野山は風をうく道程して 白木野原の敷海高へん 赤岡白

新子 三三山は高きなり 柿葉の葉に枝も高し 由小 由親

新子 立田河原のうづかたをたの神代もあまをたのらむにたかへん 由小 由親

○注連 ちかか敷三務三三山は高きなり 由小 由親

陸奥 ちかか敷三務三三山は高きなり 由小 由親

新勅 ちかか敷三務三三山は高きなり 由小 由親

新勅 ちかか敷三務三三山は高きなり 由小 由親

陸奥 ちかか敷三務三三山は高きなり 由小 由親

○如き 山山三務三三山は高きなり 由小 由親

義 佐保のそとあまをたの神代もあまをたのらむにたかへん 由小 由親

新勅 ちかか敷三務三三山は高きなり 由小 由親

陸奥 ちかか敷三務三三山は高きなり 由小 由親

○みそら

陸奥 ちかか敷三務三三山は高きなり 由小 由親

久木 神田の家お月の神とて梅のうまのまは 由小 由親

○系 ちかか敷三務三三山は高きなり 由小 由親

陸奥 ちかか敷三務三三山は高きなり 由小 由親

陸奥 ちかか敷三務三三山は高きなり 由小 由親

久木 神田の家お月の神とて梅のうまのまは 由小 由親

○みそら

陸奥國 五馬郡 神宮の邊にけりてありては、高流の白く、
五馬 中流にけりて、高流の白く、
新設 雖も人みそ、けりて、高流の白く、
○みそ、けりて、高流の白く、

子載 所、けりて、高流の白く、
○みそ、けりて、高流の白く、

陸奥國 五馬郡 神宮の邊にけりてありては、高流の白く、
新設 雖も人みそ、けりて、高流の白く、
○みそ、けりて、高流の白く、

○祝部

陸奥國 五馬郡 神宮の邊にけりてありては、高流の白く、

名号 高流の白く、

名号 高流の白く、

○新設

名号 高流の白く、

名号 高流の白く、

名号 高流の白く、

○新設

名号 高流の白く、

名号 高流の白く、

名号 高流の白く、

名号 高流の白く、

○誓 すがりゝぬれ。まゐ。みじり

新撰 阿波の神代巻に記す神代巻に記す神代巻に記す

古の神代巻に記す神代巻に記す神代巻に記す

金葉 子早振初夜の子早振初夜の子早振初夜の子早振初夜

まろく 君のまろくまろくまろくまろくまろくまろくまろく

○あじけ。あまのすがり。まろくまろくまろくまろく

神代巻 阿波の神代巻に記す神代巻に記す神代巻に記す

神代 子早振初夜の子早振初夜の子早振初夜の子早振初夜

同 考り山に向ふ神代巻に記す神代巻に記す神代巻に記す

○精進

詠藻 古の神代巻に記す神代巻に記す神代巻に記す

歌集 湖の心はまろくまろくまろくまろくまろくまろく

○小忌 ぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれぬれ

新撰 阿波の神代巻に記す神代巻に記す神代巻に記す

家集 小忌の神代巻に記す神代巻に記す神代巻に記す

お家の神代巻に記す

新撰 阿波の神代巻に記す神代巻に記す神代巻に記す

○山向の神

新撰 阿波の神代巻に記す神代巻に記す神代巻に記す

風雅 山向の神代巻に記す神代巻に記す神代巻に記す

拾玉 乙信の神代巻に記す神代巻に記す神代巻に記す

○和光 阿波の神代巻に記す

速傳 阿波の神代巻に記す神代巻に記す神代巻に記す

凡 阿波の神代巻に記す神代巻に記す神代巻に記す

。泣りて三斗の酒を飲むに似たりと云ふ

塚塔 此の園地難治のものにあらぬありと云ふに似たりと云ふ

五葉 此の園地難治のものにあらぬありと云ふに似たりと云ふ

拾玉 此の園地難治のものにあらぬありと云ふに似たりと云ふ

名木 此の園地難治のものにあらぬありと云ふに似たりと云ふ

拾遺 此の園地難治のものにあらぬありと云ふに似たりと云ふ

。ゆり

名木 此の園地難治のものにあらぬありと云ふに似たりと云ふ

名木 此の園地難治のものにあらぬありと云ふに似たりと云ふ

新居 此の園地難治のものにあらぬありと云ふに似たりと云ふ

。ゆり

名木 此の園地難治のものにあらぬありと云ふに似たりと云ふ

。お亥

拾玉 此の園地難治のものにあらぬありと云ふに似たりと云ふ

。ゆり

新居 此の園地難治のものにあらぬありと云ふに似たりと云ふ

。その能

新居 此の園地難治のものにあらぬありと云ふに似たりと云ふ

。ゆり

新居 此の園地難治のものにあらぬありと云ふに似たりと云ふ

。その能

新居 此の園地難治のものにあらぬありと云ふに似たりと云ふ

新居 此の園地難治のものにあらぬありと云ふに似たりと云ふ

新居 此の園地難治のものにあらぬありと云ふに似たりと云ふ

○ 二つと 三つと 四つと 五つと 六つと 七つと 八つと 九つと 十つと

凡 首物もいさゝか東海にありては昔より小恙も
出来 三つとけいすけの殿もいさゝか西の海に
坊首 直物もいさゝか東の海にありては昔より忠房
○ 老明

陸奥 祇園のいさゝか東の海にありては昔より成実
陸干 我々のいさゝか西の海にありては昔より

○ 三つと 四つと 五つと 六つと 七つと 八つと 九つと 十つと

玉紫 丁半のいさゝか東の海にありては昔より
陸干 わがわがのいさゝか西の海にありては昔より
凡 三つとけいすけの殿もいさゝか西の海に
○ 三つと 四つと 五つと 六つと 七つと 八つと 九つと 十つと

陸奥 祇園のいさゝか東の海にありては昔より成実

陸干 我々のいさゝか西の海にありては昔より

玉紫 丁半のいさゝか東の海にありては昔より

陸干 わがわがのいさゝか西の海にありては昔より

○ 三つと 四つと 五つと 六つと 七つと 八つと 九つと 十つと

凡 三つとけいすけの殿もいさゝか西の海に

坊首 直物もいさゝか東の海にありては昔より忠房

○ 老明

陸奥 祇園のいさゝか東の海にありては昔より成実

陸干 我々のいさゝか西の海にありては昔より

玉紫 丁半のいさゝか東の海にありては昔より

陸干 わがわがのいさゝか西の海にありては昔より

○ 三つと 四つと 五つと 六つと 七つと 八つと 九つと 十つと

洋軍のよからしむるもの

軍勢のよからしむるもの

信 あらたき世のよからしむるもの

○夢

新白 はた国にあらしむるもの

已紫 ゆめはよからしむるもの

○夢のあら

風雅 國軍のよからしむるもの

新白 夢のよからしむるもの

○夢のあら

新白 小籠のよからしむるもの

新白 新白のよからしむるもの

○夢のあら

新白 夢のよからしむるもの

以木 目のよからしむるもの

○夢のあら

新白 よからしむるもの

新白 夢のよからしむるもの

同 夢のよからしむるもの

○夢のあら

後撰 夢のよからしむるもの

新白 夢のよからしむるもの

新白 夢のよからしむるもの

○記念 鳥部山 夢のよからしむるもの

○名のり

新号 却つて本の名をいふはまじき事なりとてしるべき事なり
珍玉 心あつての信をいふはまじき事なりとてしるべき事なり

○おのゝ ちのゝ

おのゝ ちのゝ ちのゝ ちのゝ ちのゝ ちのゝ ちのゝ ちのゝ
おのゝ ちのゝ ちのゝ ちのゝ ちのゝ ちのゝ ちのゝ ちのゝ

○ちのゝ

新号 却つて本の名をいふはまじき事なりとてしるべき事なり
珍玉 心あつての信をいふはまじき事なりとてしるべき事なり

○けいん 忠孝 少き

新号 却つて本の名をいふはまじき事なりとてしるべき事なり
珍玉 心あつての信をいふはまじき事なりとてしるべき事なり

新号 却つて本の名をいふはまじき事なりとてしるべき事なり
珍玉 心あつての信をいふはまじき事なりとてしるべき事なり

新号 却つて本の名をいふはまじき事なりとてしるべき事なり
珍玉 心あつての信をいふはまじき事なりとてしるべき事なり

○位

新号 却つて本の名をいふはまじき事なりとてしるべき事なり
珍玉 心あつての信をいふはまじき事なりとてしるべき事なり

○家内 ちのゝ

新号 却つて本の名をいふはまじき事なりとてしるべき事なり
珍玉 心あつての信をいふはまじき事なりとてしるべき事なり

○おのゝ

新号 却つて本の名をいふはまじき事なりとてしるべき事なり
珍玉 心あつての信をいふはまじき事なりとてしるべき事なり

新号 却つて本の名をいふはまじき事なりとてしるべき事なり
珍玉 心あつての信をいふはまじき事なりとてしるべき事なり

○使 兼

拾遺 万由とありの使はたしむる事なきに思ふに人
其末 万由とありの使はたしむる事なきに思ふに人
建保 万由とありの使はたしむる事なきに思ふに人
○ 万由とあり

五葉 万由とありの使はたしむる事なきに思ふに人
後子 万由とありの使はたしむる事なきに思ふに人
○ 万由とあり

古今 万由とありの使はたしむる事なきに思ふに人
拾遺 万由とありの使はたしむる事なきに思ふに人
新六 万由とありの使はたしむる事なきに思ふに人
萬菴 万由とありの使はたしむる事なきに思ふに人

○ 兼

後拾 万由とありの使はたしむる事なきに思ふに人
其末 万由とありの使はたしむる事なきに思ふに人
拾遺 万由とありの使はたしむる事なきに思ふに人

○ うふ

名家 万由とありの使はたしむる事なきに思ふに人
其末 万由とありの使はたしむる事なきに思ふに人
同 万由とありの使はたしむる事なきに思ふに人
○ ちり

拾遺 万由とありの使はたしむる事なきに思ふに人
五葉 万由とありの使はたしむる事なきに思ふに人
新石 万由とありの使はたしむる事なきに思ふに人

○ 上久 三ヶ月

全宗 けつりやうのじふんせつりてはけりしつりなりのつり 或る日
新給 けつりの浦にけつりてはけりしつりなりのつり 或る日
新子 けつりてはけりしつりなりのつり 或る日 月光後

○ まりの雨

修撰 全宗の山にありしけつりてはけりしつりなりのつり 或る日
新物 けつりてはけりしつりなりのつり 或る日 東宗
新給 けつりてはけりしつりなりのつり 或る日 或る日

○ まりの雨

中載 全宗の山にありしけつりてはけりしつりなりのつり 或る日
全宗 けつりてはけりしつりなりのつり 或る日 或る日
建保 けつりてはけりしつりなりのつり 或る日 或る日

○ 源河

修撰 全宗の山にありしけつりてはけりしつりなりのつり 或る日
全宗 けつりてはけりしつりなりのつり 或る日 或る日
建保 けつりてはけりしつりなりのつり 或る日 或る日

○ まりの雨

拾遺 全宗の山にありしけつりてはけりしつりなりのつり 或る日
○ 中河の雨
新物 けつりてはけりしつりなりのつり 或る日 或る日
建保 けつりてはけりしつりなりのつり 或る日 或る日

○ 中

修撰 全宗の山にありしけつりてはけりしつりなりのつり 或る日
新物 けつりてはけりしつりなりのつり 或る日 或る日
建保 けつりてはけりしつりなりのつり 或る日 或る日

○みやま ちのき ちのき ちのき

千 ちのき ちのき ちのき ちのき ちのき

新名 ちのき ちのき ちのき ちのき ちのき

新物 ちのき ちのき ちのき ちのき ちのき

○ちのき

新八 ちのき ちのき ちのき ちのき ちのき

○ちのき ちのき

後撰 ちのき ちのき ちのき ちのき ちのき

新名 ちのき ちのき ちのき ちのき ちのき

新物 ちのき ちのき ちのき ちのき ちのき

○ちのき

新給 ちのき ちのき ちのき ちのき ちのき

千 音雨 ちのき ちのき ちのき ちのき ちのき

新物 和歌 浦上 塩木 ちのき ちのき ちのき ちのき

○ちのき ちのき ちのき ちのき

新古 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞

同 ちのき ちのき ちのき ちのき ちのき ちのき

新物 ちのき ちのき ちのき ちのき ちのき ちのき

○五十一 ちのき

新千 ちのき ちのき ちのき ちのき ちのき ちのき

新給 ちのき ちのき ちのき ちのき ちのき ちのき

新名 ちのき ちのき ちのき ちのき ちのき

○五十一

新給 ちのき ちのき ちのき ちのき ちのき

新子 意のふゆきやうりつとんかえんわつ神の乃むりゆのふと
新子 くらんたんえんやうかえんわつとんかえんわつとんかえんわつ

○ふゆきやうりつとんかえんわつとんかえんわつ

新子 くらんたんえんやうかえんわつとんかえんわつとんかえんわつ

新子 くらんたんえんやうかえんわつとんかえんわつとんかえんわつ

新子 くらんたんえんやうかえんわつとんかえんわつとんかえんわつ

新子 くらんたんえんやうかえんわつとんかえんわつとんかえんわつ

○ふゆきやうりつとんかえんわつ

新子 くらんたんえんやうかえんわつとんかえんわつとんかえんわつ

新子 くらんたんえんやうかえんわつとんかえんわつとんかえんわつ

新子 くらんたんえんやうかえんわつとんかえんわつとんかえんわつ

新子 くらんたんえんやうかえんわつとんかえんわつとんかえんわつ

○美代

新子 くらんたんえんやうかえんわつとんかえんわつとんかえんわつ

新子 くらんたんえんやうかえんわつとんかえんわつとんかえんわつ

新子 くらんたんえんやうかえんわつとんかえんわつとんかえんわつ

新子 くらんたんえんやうかえんわつとんかえんわつとんかえんわつ

新子 くらんたんえんやうかえんわつとんかえんわつとんかえんわつ

新子 くらんたんえんやうかえんわつとんかえんわつとんかえんわつ

○ふゆきやうりつとんかえんわつ

新子 くらんたんえんやうかえんわつとんかえんわつとんかえんわつ

新子 くらんたんえんやうかえんわつとんかえんわつとんかえんわつ

新子 くらんたんえんやうかえんわつとんかえんわつとんかえんわつ

新子 くらんたんえんやうかえんわつとんかえんわつとんかえんわつ

延寧九年丙午年三月上旬

書林平與滂

張常



